

保育指導案

草津市立玉川こども園 中川珠紀

5歳児 7月

1 活動名

萩染めで「世界で一つだけのTシャツづくり」をしよう

2 活動の目標（ねらい）

- ・「萩」をはじめ自然物を使用し染物ができることや萩刈りから粉碎をはじめとした萩染めの準備や模様付けを通して、Tシャツが染め上がるまでの工程を知る。 (知識及び技能の基礎)
- ・アイデアや工夫を生かしながら模様をつけ、染め上がりの美しさを感じながら、自分だけのTシャツづくりをする。 (思考力・判断力・表現力等の基礎)
- ・工芸美術家の方や地域の方に模様のつけ方や染め方を教えてもらったり、関わったりすることをとおして地域の人に親しみをもつ。 (学びに向かう力・人間性等)
- ・完成したTシャツを地域の方に届けたり着用したりしてもらおう経験を通して、地域とのつながりや感謝の気持ちを育む。 (学びに向かう力・人間性等)

3 活動に寄せて

(教材観)

本園のある玉川学区は、古くは平安時代から「萩」を題材にした歌が詠まれ、「萩の玉川」と言われるなど「遺跡と萩を育むまち玉川」として地域が大切に保存している。その地域の植物「萩」は園庭をはじめ、子どもの通園路やまちづくりセンターなど、学区内をはじめ子どもたちの身近な所に植栽され、子どもたちにとっては身近な植物である。そのため、色水づくりやごちそうづくりなど遊びの中にも常に取り入れ、子どもたちにとっては、見慣れた親しみのある素材である。

「萩」をはじめ自然物は、自然ならではの風合いを感じることができる。また、同じ工程でTシャツづくりを行っていてもどれ一つとして同じものにならないなど、自分だけのオリジナルのものができる。

(児童観)

本園は、地域の植物「萩」を使い、地域在住の工芸美術家の方を講師としてお越しいただき、毎年、5歳児が保護者と一緒に7月に萩染めTシャツづくりを行っている。また染めたTシャツは、運動会や発表会、地域の行事などで着用している。自分たちも5歳児になれば「萩染めTシャツ」をつくることができると期待をしている。

(指導観)

本園の保護者は、他府県から転入してきた人がほとんどである。また、学区内の企業に勤務している保護者が多く、転勤になることから定住する家庭は少ない。また、人との関わりも限られた人の中で生活をしていることから希薄で、地域に対する関心も薄い。そのような保護者に、地域ならではの植物「萩」を使用した萩染め体験を子どもと一緒にすることで、地域の人との交流や地域の良さを知ってもらう契機になると考え、保護者にも体験の場となるよう、子どもと一緒にやっている。

地域の祭り「萩まつり」は、子どもたちにとって親しみのある祭りである。いつもお世話になっている地域の方々へ、子どもたちが染めたTシャツを贈呈し着用していただく。萩まつりで「萩染めTシャツ」を着用してもらうことで、「萩染め」の普及と地域教材の新たな発見や地域の再発見につながることを願う。また、子どもたちにとっては、いつもは、受身的に参加している萩まつりに、自分たちの染めた萩染めTシャツを贈呈することで、間接的ではあるが参画させてもらうことで、地域の人をはじめ人に喜んでもらう喜

びや自分が地域の中の一人であるという社会との関わりを感じるための基礎を育みたい。

4 ESD との関連

○活動を通して養いたい ESD の視点

多様性

- ・自然由来の染色は、同じ植物でも天候や水質によって色合いがことなるなど、誰一人として同じものができない。「唯一無二」であることを知る。

相互性

- ・地域の人と一緒に活動することをとおして、「自分は地域の人に支えられている」ことを感じ、地域の人も「子どもの育ちに関われる」喜びを感じることができる。

連携性

- ・萩の採取や染色作業を地域と共に行うことで、「地域資源は共有し、守り、活かすもの」という意識の育みにつながる。

○ESD を通して育てたい ESD の資質・能力の基礎

つながりを尊重する態度

- ・地域の人に「萩染め」の仕方を教えていただく。また、地域の施設や場所で萩を刈らせていただいたり、運搬や粉碎を手伝っていただいたりするなど、地域の人に感謝する。(社会生活とのかかわり)
- ・染め上がったTシャツを「萩まつり」で地域の人が着用してくださることに思いを馳せ、人に喜んでもらうことや自分も地域の中の一人として「萩まつり」に参加することを感じる。(社会生活とのかかわり)

○ESD を通して育てたい価値観の基礎

世代内の公正

- ・日本の自然や四季を背景に発展してきた染色文化を子どもたちが体験することで、地域文化や伝統技術を尊重する姿勢が育つ。

自然環境、生態系の保全の重視

- ・萩染めに使用した萩や染液を畑の肥料として使用することで、「使う・捨てる」ではなく「循環させる」という発想を育む。

○達成に貢献できる SDG s



5 保育構想図(活動に至るまでの遊びの流れ)

11月



萩まつり



人に喜んでもらうことや社会とのつながりを感じる力



9月

地域の方に萩まつりのTシャツを贈呈する



地域に親しみをもち、関わりを広げる姿勢

今後の活動

7月

萩染めで「世界で一つだけのTシャツづくり」をしよう

友だちとイメージを共有したり、考えを伝え合ったりする力



採取した萩を粉碎したり、Tシャツにつける模様の材料を集めたりして準備する

6月

萩刈りをする(園、まちづくりセンター、十弾寺川など)

友だちと同じ目的のもと協力してことを進めていこうとする力



活動に見通しをもってやろうとする力



4・5月

自然物や身近な素材を遊びに取り入れて工夫する力



色水づくり



色水で染めたり色を付けたりして遊ぶ



6 活動の評価規準

ア 知識及び技能の基礎	イ 思考力・判断力・表現力等の基礎	ウ 学びに向かう力・人間性等
① 「萩」をはじめ自然物を使用し染物ができることを知る。 ② 萩刈りから粉碎をはじめとした萩染めの準備や模様付けを通して、Tシャツが染め上がるまでの工程を知る。 ③ 萩という自然物を扱うなかで、自然ならではの風合いやその特性に気づく。	① アイデアや工夫を生かしながら模様をつけ、染め上がりの美しさを感じながら自分だけのTシャツづくりをする。	① 工芸美術家の方や地域の方に模様のつけ方や染め方を教えてもらったり、関わったりすることをおして親しみをもつ。 ② 友だちや保護者と一緒に「世界で一つだけのTシャツづくり」に楽しんで参加する。

7 保育指導計画

(1) 活動名 萩染めで「世界で一つだけのTシャツづくり」をしよう

(2) ねらい ・地域の植物「萩」を使い、世界で一つだけの萩染めTシャツをつくる。

内 容 ・地域の植物「萩」に触れ、色や香り、手触りなどを五感で感じながら、身近な自然への関心を高める。

・染まり方や模様の違いを楽しみ、「同じ材料でも一つとして同じものはない」ことを実感する。

時 間	活 動	援 助	評 価
9:00	保護者と一緒に玉川市民センターに向かう。	・保護者が欠席の子どもは保育者が一緒に活動をする。	
9:15	本日の活動「萩」や「萩染め」について話を聞く。 ・講師：工芸美術家 三原サダ子さんの話を聞く。 ・染め物について話を聞く。 ・Tシャツの模様のつけ方について教えてもらう。 ・ビー玉やボタン、木片、輪ゴムなどを使い模様をつける。保護者と一緒に相談しながら行う。 ・Tシャツを染める。 ・染液につける。 40度くらいに熱した1番液を大きな袋(二重)に入れ、そこにTシャツを入れる。 軍手を付けて親子で袋の上からもみ、色を付ける → サッと水洗いをする 熱した媒染液に20分浸ける→すすぐ(→2番液で煮る→媒染液に浸ける。)	・縛り方やビー玉、棒など使用するものによって模様が変わることを知らせる。 ・模様のつけ方など、わからないことがあれば、自ら質問をするように促す。 ・保護者も一緒に活動ができるように声をかける。 ・萩の煮汁の匂いや色などを感じられるように声をかける。 ・染め上がりを楽しみにまてるように声をかける。	ウ① イ①
11:30	・まちづくりセンターでの活動を終える。		
13:30	園庭にて保護者と一緒に紐、輪ゴムを解き乾かす。 ・どのような模様になっているか予想したり、期待したりしながら輪ゴムをほどく。 ・それぞれの染め上がり方や模様のつけ方を見せ合う。	・染めあがった模様に期待をもつ。 ・友だちと出来上がったTシャツを見せ合いながら、同じように染めたTシャツの風合いや模様など、どれ一つとして同じものがないことの気づきを促す。	ア③ ウ②

10 成果と課題

- ・日ごろの遊びの中で親しんできた「萩」の植物が、色水やごちそうづくりだけでなく、ものを染めることにも使えるということがわかり、こうした経験を通して身近なものも工夫次第で、様々なことに取り入れられるということを実感することができたようである。そのことから、遊びや活動の中でも素材がどのような使い方ができるかを考えたり、イメージや目的を達成するために素材の特性を考えながら取り入れたりすることができるようになってきた。
- ・煮だした萩の残りカスを畑の肥料として使いながら、子どもたちと一緒に土づくりを行った。その体験を通して、自然物は循環できることやまた、新たなものに再生できることを実感できたようである。日ごろ取り組んでいるコンポストなどの体験も同じこととして結び付けることができた。
- ・萩染までに自分たちで萩を刈ったり地域の人に手伝ってもらったりして準備を進めてきたが、こうした一連の流れを知ることで、一つの体験をするまでに園の先生や保護者だけでなく、地域の人も含め、たくさんの人が関わっていることを知ることができた。また、萩染め体験をはじめ自分たちの体験活動が多くの人に支えられて行えることが実感できたようで、地域の人がものを運んで来られたり、園に来られたりした際には、自ら進んで「ありがとう」や挨拶ができる子どもが増えてきた。
- ・できた萩染めTシャツを地域の人に届け、萩まつりで着してもらったことで、地域の人から「ありがとう」と感謝してもらったことは、自分も人の役に立ったことへの喜びを感じたり、地域とのつながりや地域の一員として実感したりすることができたようである。子どもたちから「来年もまた、Tシャツを届けたい」といった言葉や「次のそら組(5歳児)さんにもTシャツを届けるように言っとかないとあかん」などと言った言葉が聞かれた。
- ・保護者と活動と一緒にいったことで、保護者からは「地域の身近な自然を使いこのようなことができるとは思わなかった」「地域の方と子どもをはじめ、自分も自然と関わることができてよかった」と言った声が寄せられ、家庭にも地域の良さを発見したり地域の人との繋がりをもつ契機となったことは、良かった。
- ・保護者自身も萩染め体験を行ったことで、子どもが地域の植物「萩」に親しみ、身近な自然や文化に触れた体験を行っていること知ることができた。また、地域の人や地域資源と繋がりながら育つということや園と家庭、地域が共に子育てをしている実感をもつことができた。
- ・萩まつり実行委員の方にTシャツを贈ったことで、萩染めのことが地域の中で広がった。地域の方から「長年住んでいるけれど、こんなことができるの知らなかったわ」「萩染めTシャツをみんなが着て今年の萩まつりは一体感が生まれた」と言ったような言葉も聞かれた。このことを通して、地域の人が地域にある植物「萩」を資源として捉え直し、地域の自然や文化の価値を再認識することができた。併せて、地域の人が地域に対する再発見をもたらすことができた。また、園と地域が「地域の自然や文化が子どもたちの学びの中に生かされている」という実感が共有され、園の実践をきっかけに地域の自然を守り、活用し、次世代へ繋いでいこうとする地域の人々の意識を高める契機となった。
- ・準備から活動、その後の萩まつりまで一連の活動を地域の方と一緒に作業する中で、人との繋がりや温かさを感じ感謝やおもいやりの気持ち、協力し合う姿勢が地域と園の両方で育まれたことは大きな成果である。そのことを実感した保育者も地域資源を保育に取り入れる意義を実感し、自然や文化を教材として生かす視点が広がった。
- ・萩染め体験は子ども・保護者・地域、園が相互に学び合い、地域の自然と文化の価値を共有し、地域教材の開発や地域の良さを再発見につながった意義ある実践となった。このことをとおして、地域の人々の位置づけが「協力から協働へ」の構築につながった。しかし、活動をその時のみの体験で終わらせず、日常の遊びや学びにどう繋げていくか、また、地域も園も人が入れ替わっていく中で、持続可能に継続するための体制づくりや地域との協働関係をさらに広げ盤石にしていくことや、園が学びを発信・循環させる拠点となるようにしていく必要がある。

カリキュラムマネジメント

(教育目標)

自然や仲間とのかかわりを深め、体験の感動を味わい、玉川こども園に胸膨らませて通う心豊かなこども

(5歳児学年のめざすこどもの姿)

自分の思いや考えを自分なりの表現で伝え、仲間と共に考え、行動し、生活や遊びをつくりだそうとするこども

(ESDを通してめざす子どもの姿)

地域の人やものに触れ、関わるなかで、地域に愛着や親しみをもつことができるこども

感動や体験を味わい、いろいろな方法で表現できるこども

菘染めで「世界で一つだけのTシャツづくり」をしよう（7月）

- ・「菘」をはじめ自然物を使用し染物ができることを知る。（知識及び技能の基礎）
- ・菘刈りから粉碎をはじめとした菘染めの準備や模様付けを通して、Tシャツが染め上がるまでの工程を知る。（知識及び技能の基礎）
- ・菘という自然物を扱うなかで、自然ならではの風合いやその特性に気づく。（知識及び技能の基礎）
- ・アイデアや工夫を生かしながら模様をつけ、染め上がりの美しさを感じながら、自分だけのTシャツづくりをする。（思考力・判断力・表現力等の基礎）
- ・工芸美術家の方や地域の方に模様のつけ方や染め方を教えてもらったり、関わったりすることをおして親しみをもつ。（学びに向かう力・人間性等）
- ・友だちや保護者と一緒に「世界で一つだけのTシャツづくり」に楽しんで参加する。（学びに向かう力・人間性等）

ESDで重視する能力・態度が揺さぶられる子どもの姿（幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿）

未来を予測して計画を立てる力

・菘のような自然由来のものは環境にやさしく、循環できることを知る。（自然とのかかわり・生命尊重）

コミュニケーションを行う力

・自分のイメージや考えを友だちに伝えたり聞いたりする。（言葉による伝え合い、豊かな感性と表現）

つながりを尊重する態度

・地域の人に「菘染め」の仕方を教えていただき親しみをもつ。また、地域の施設や場所で菘を刈らせていただいたり、運搬や粉碎を手伝っていただいたりするなど、地域の人に感謝する。（社会生活とのかかわり）

・染め上がったTシャツを「菘まつり」で地域の人が着用してくださることに思いを馳せ、人に喜んでもらうことや自分も地域の中の一人として「菘まつり」に参加することを感じる。（社会生活とのかかわり）

5歳児指導計画

ねらい（7月）

- ・いろいろな遊びの中で自分なりの目的をもち、楽しみながら物事を最後までやり遂げようとする。
- ・地域の自然に関心をもち、友だちと協力しながら、試行錯誤して表現する楽しさを味わう。